

妊娠中の異常

こんな時はすぐに産婦人科医の診察を

出血	妊娠中の出血は時期にかかわらず、必ず受診しましょう。 妊娠初期ならば流産・子宮外妊娠・胎状奇胎等が考えられます。 妊娠中期以降ならば早産・前置胎盤・常位胎盤早期剥離等が考えられます。 安静にして、医師に症状を連絡し、診察を受けてください。
お腹の張り・痛み	まずは体を休め、様子を見て、それで収まるようならば生理的なものと考えられます。 しかし、「どんどん痛みが強くなる」、「動けないほど痛い」、「出血を伴う」、「発熱を伴う」などの時は放ってはいけません。 妊娠初期ならば流産・子宮外妊娠等が考えられます。 妊娠中期以降ならば早産・前置胎盤・常位胎盤早期剥離等が考えられます。 すぐに入院が必要な場合もあります。
常位胎盤早期剥離	胎盤が出産前に子宮からはがれてしまう状態を常位胎盤早期剥離といいます。 赤ちゃんに酸素が届かない状態になるので、早急な分娩が必要になります。 主な症状は出血と腹痛です。胎動を感じにくくなることもあります。
前置胎盤	胎盤が子宮口をふさいだり、子宮口の一部にかかってしまうような形で発達してしまう場合を前置胎盤といいます。妊娠経過を見ながら過ごすことになります。 大出血をおこすこともあり、出産時帝王切開が必要な場合もあります。
胎動が急に感じられなくなった	「昨日までよく動いていた赤ちゃんが今日は一度も動かない」「胎動が弱い」というときにはすぐに診察を受けましょう。何らかの原因で胎児が弱まっているかもしれません。
前期破水	胎児を包んでいる膜が陣痛開始前に破れてしまうことです。 妊娠半ばで破れると、胎児が子宮の中にいられなくなり流産・早産となります。 妊娠後期の場合は入院治療で無事に出産できる可能性があります。

※妊娠中の異常は突然起こることもあります。

そのためにも健診を必ず受けて、妊婦健診の予定を変更するようなどきには前にずらして、もっと早く来ればよかったというような事がないようにしましょう。

※母子健康手帳は必ず携帯するようにしましょう。



わたしの妊婦健診受診施設


TEL番号:

わたしの分娩予定施設

TEL番号:

妊娠高血圧症候群について

以前は妊娠中毒症と呼んでいました。妊娠20週から出産後12週までに起こる、妊産婦特有の病気です。高血圧(最高血圧140mmHg以上最低血圧90mmHg以上)が見られ、たんぱく尿をとまうことがあります。

<p>自覚症状</p>	<ul style="list-style-type: none"> *手足・顔・まぶたがむくむ *急激な体重増加(1週間に500g以上) *尿の量が少ない *頭痛・動悸がする *目がチカチカする *気分が悪い(吐き気がする) 
<p>原因</p>	<p>はっきりしていませんが、過労・ストレス・高血圧家系・肥満などが原因といわれています。合併症(糖尿病・腎臓病・高血圧など)の影響を受ける可能性があります。</p>
<p>母体への影響</p>	<p>早産・胎盤早期剥離・分娩時の多量出血 脳内出血・腎不全・肝不全・けいれん 産後の後遺症など全身に悪影響を及ぼします。</p>
<p>赤ちゃんへの影響</p>	<p>発育の遅れ・胎児仮死・死亡・新生児仮死</p>
<p>妊娠高血圧症候群の予防</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①休養と安静を心がける:夜更かしを避け、十分な休養と睡眠が必要です。 ②太りすぎを防ぐことが重要です。 ③塩分の取りすぎは体に水分を取り込み、高血圧やむくみの要因となります。 ④妊婦健康診査を定期的に必ず受け、異常の早期発見につなげます。

妊娠糖尿病について

妊娠中に初めて発見、発病したもので、糖尿病には至らない血液中のブドウ糖濃度が高い状態になる病気です。

<p>自覚症状</p>	<p>ほとんど自覚症状はない</p>
<p>原因</p>	<p>妊娠中は胎盤から出るホルモンがブドウ糖を分解するインスリンというホルモンの働きを妨害するので、妊娠糖尿病になりやすいといわれています。</p>
<p>母体への影響</p>	<p>妊娠中はホルモンの影響や腎機能の変化で、尿中に糖が出やすくなります。妊娠糖尿病だった方は、将来糖尿病になる確率が高いといわれています。</p>
<p>赤ちゃんへの影響</p>	<p>巨大児や難産、早産、出産直後に低血糖や黄疸を起こしやすくなります。</p>
<p>妊娠糖尿病の予防</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①バランスのよい食事と適度な運動を心がけましょう。 ②妊婦健康診査を定期的に必ず受け、異常の早期発見につなげます。